

小學讀本

阿部弘藏纂述

卷三

冊一
數部

校學

六

登録
番号

国書門 小教

No. 2023

6 冊の内
3

汎

縦覽所備付

2
32-1

阿部弘臧纂述

高等科

小學讀本

明治二十年六月二日 文部省檢定濟小學校教科用書

小學讀本卷三
第一章

東京 阿部弘臧 編

世ニ父母ナクバ、何ゾ我アラン、其恩海ヨリモ深ク、山ヨリモ高シ、海山ハ限リアレド、父母ノ惠ミハ疆リナシ、故ニ父母ノ恩ハ天地ニ等シト言ヘリ、之ニ報ズルノ道ハ、タゞ孝行ヲ勤ムルニ在リ、孝行ノ要ハ、父母ノ志ヲ養フヲ以テ第一トス、何事モ父母ノ教訓ニ違ハズ、世法ヲ重ンジ、身ヲ守

リ家ヲ保ツベシ、其子ノカ、ル振舞ヲ見ナバ、父
母ノ心ハ如何バカリカ安堵セシ、是ヲ父母ノ志
ヲ養フトイフ、惜ムベキハ父母存生ノ日ナリ、時
ニ及ビテ孝養セズバ、後ニ悔ユトモカヘルベキ
カハ、

第二章

一人ノ富メル女アリ、大厦ニ住ミ、錦繡ヲ衣テ、常
ニ豪華ニ誇リケルガ、或ル搢紳ノ女子ト會シ、一
ツノ寶玉ヲ示シテ、コハ稀有ノ珍品ニテ愛玩ス
ベキ物ナラズヤト誇リカニ言ヒケルニ、彼ノ女

之ヲ見テ驚クサマモナ
カリケレバ、其許ノ異寶
ハ定メテ多カリナン、願
クハ一見セバヤト乞ヒ
ケルニ、答ヘテ曰ク、暫シ
待チタマハバ、視セマ耳
ラスベシトテ、我が子ニ
人ヲ學校ヨリ呼ビテ、左
右ニ坐セシメ、サテ語リ
テ曰ク、子ハ父母ノ寶ト



爲ランコトヲ欲シ、日夜其業ヲ勉メテ怠ラズ、父
母之ヲ愛シテ寶トシ、日夜其業ヲ勸メテ怠ラズ、
妾ガ寶ハ此外ニナシト言ヒケレバ、婦人大ニ愧
ヂケルトゾ、

第三章

賢母アリ、線絲ヲ絲卷ニ卷カントテ、其子ニ命ジ
テ絲ヲ執ラシメケルニ、童子過チテ紛亂セシメ
シカバ、コレヲ解カントシテ、絲口ヲ失ヘリ、既ニ
シテ一緒ヲ求メ得タリシカバ、急ニコレヲ引キ
ケルニ、絲ハ愈結ボ、レテ解ケズ、童子頓ニ氣ヲ

焦チケルヲ見テ、母ノ曰ク、カクスル時ハ、タゞニ
其紛亂ヲ益サンノミ、暫ク汝ガ心ヲ静メテ絲ノ
筋目ヲ正スベシ、其筋目サヘ分リナバ、絲ハ自ラ
解ケンモノヲト、又告ゲテ曰ク、人ノ事業ヲ務ム
ルハ、サナガラ亂レタル絲ヲ理ムルガ如シ、世ニ
處シ事ニ臨ミテ、血氣ニハヤルトキハ、徒ニ勞シ
テ其功ヲ見ルコト難シト教ヘケルトゾ、

第四章

或ル年ノ冬、亞米利加ノ一都火ヲ失シケルガ、風
強クシテ、アマタノ人家ヲ燒亡ス、人々オホカタ

ハ近キワタリノ村々ノ親戚知友ナドニタヨリテ、一時ヲシノギケルガ、貧シキ者ハ身ノ依ルベナク、原野ニサマヨヒ、凍餒ニ迫レリ、僧徒等之ヲ憐ミテ、新聞紙モテ其アリサマヲ告ゲ、金穀ヲ募リテ、之ヲ賑恤セリ、ヲリカラ一人ノ童兒アリ、僅ノ錢ニ一領ノ古衣ト、及ビ數個ノ林檎トヲ携ヘ來リテ曰ク、我モ亦賑恤ノ舉ニ應ゼント、人皆其少キヲ笑ヒケルニ、僧ハ反リテ嗟稱シテ、身ノ分ニ應ジタル施物コソ殊勝ナレ、何ゾ物ノ多少ヲ論ゼントイヒテ、之ヲ受ケ納メケルトゾ、

第五章

熊澤了介京師遊學ノ時、中江藤樹ノ徳ヲ聞キ及ビ、コレゾ適從スベキ良師ナルトテ、江州小川ニ尋子行キ、藤樹ノ門ニ立チテ教ヲ受ケント乞ヒケルニ、人ニ教フベキ學徳ナシトテ許サレズ、了介ヒタスラニ乞ヒ索メ、二日ガ間門ノ下ニ打臥シテ、去ルベキ色モアラザリシカバ、藤樹ノ母深ク感ジテ、カクマデニ思ヒヲ込メテ乞ハル、ス、辭スルハ却リテ心ナキニ似タリ、汝ノ知レル事ヲダニ教ヘナバ、好ミテ人ノ師ト爲ルニハ非ジ

トアリケレバ、藤樹始メテ命ニ從ヒ、遂ニ師弟ノ
約ヲ結ビシトゾ、此師アリテ此弟アリトハ、二賢
ガ事ヲヤ言フベキ、

第六章

養生ノ術ハ、勤ムベキコトヲヨク勤メテ、身ヲ動
シ氣ヲメグラスヲ善シトス、勤ムベキコトヲ勤
メズシテ、臥スコトヲ好ミ、身ヲ息メ怠リテ、動サ
バルハ、甚ダ養生ニ害アリ、食後ニハ數百歩ヲ歩
ミテ、氣ヲ運ラシ、食ヲ消スベシ、眠リ臥スベカラ
ズ、飲食ハ人生專一ノ補ヒニテ、半日モ缺キ難シ、

然レドモ、人ノ大慾ニシテ、口腹ノ好ム所ナレバ、
其好メルニ任セテ恣ニスレバ、病ヲ生ジ命ヲ失
ス、人生日々ニ飲食セザルコトナシ、常ニ慎ミテ
慾ヲコラヘザレバ、過ゴシヤスクシテ病ヲ生ズ、
古人モ禍ハ口ヨリ出テ、病ハ口ヨリ入ルトイヘ
リ、

第七章

支那後漢ノ人華佗ハ、養性ノ術ヲ曉リ、年マサニ
百歳ナラントシテ猶壯容アリ、嘗テ吳普ト云フ
門人ニ教ヘテ曰ク、人身ハ勞動センコトヲ欲ス、

但極メシムベカラザルノ三、動揺スレバ穀氣銷
スルコトヲ得、血脈流通シテ、病生ズルコト能ハ
ズ、古ノ仙者導引ヲ爲シ、腰體ヲ引挽シ、關節ヲ動
シ、以テ老イ難カラシコトヲ求ム、吾ニ術アリ、五
禽ノ戯ト名ク、一ニ曰ク、虎、二ニ曰ク、鹿、三ニ曰ク
熊、四ニ曰ク、猿、五ニ曰ク、鳥、此術モ亦病ヲ除キ、兼
テ足ヲ健ニシ、以テ導引ニ當ツベシ、體不快アレ
バ、起チテ一禽ノ戯ヲ作スニ、心快然トシテ汗出
ヅ、普之ヲ施行スルニ、年九十ニシテ、耳目聰明、齒
牙完堅ナリト、

第八章

人品ヲ鑒識スルハ、人ノ最モ要トスル所ナリ、人
品萬異ニシテ、之ヲ見ルコト極メテ難シ、言貌親
切ニシテ、中心實ナキ者アリ、中心親切ニシテ、言
貌ニ見サバル者アリ、人心ノ均シカラザルコト、
其面ノ如ク、一概ニ判定スベカラズト雖モ、我が
言行ヲ人ノ面前ニ賞讃スル者ハ、オホカタ信ズ
ベカラザル徒ナリ、巧ニ飾リ甘ク告グル者ハ、笑
中ニ刃アリ、面譽スル者ハ、背ニ必ズ非トス、我ニ
向ヒテ我が美ヲ頌シ、我ニ諂フ者ハ、退キテ他人

ト語ルニ及ビテハ、必ズ我が非ヲ揚ゲテ我ヲ笑
 フ者ナリ、縱令背後ノ言ナクトモ、百事我ヲ譽ム
 ル者ハ、畢竟我ニ益ナキ人ナリ、

第九章

山本晴幸或ル時甲斐ノ諸士ヲ集メテ、軍略ノ物
 語セシ席ニ、小宮山助太郎、小山田八彌、秋山友市
 ト云フ三人ノ小兒打交レリ、助太郎ハ談中靜マ
 リ返リテ聞キ、八彌ハ笑ヒテ居、友市ハ倦ミテ屢
 座ヲ立ツコトアリ、晴幸熟ラ三兒ヲ視テ、助太郎
 ハ赤心動カザル大丈夫ニテ、八彌ハ一心定ラズ、



友市ハ不忠ノ名ヲ殘ス
 ベシト言ヒシニ、果シテ
 助太郎ハ、後ニ小宮山内
 膳ト云ヒ、故アリテ甲州
 ヲ去リツレドモ、勝頼天
 目山ニテ戰死ノ頃、馳セ
 還リテ死ヲ共ニセリ、八
 彌ハ小山田ハ左衛門ト
 名ノリ、勝頼戰死ノ時、逃
 レテ信州ニ走り、友市ハ

後ニ秋山内記トイヒケルガ勝頼ノ戰死ニ先ダ
チ、甲州ヲ逃レテ、織田信忠ニ降リツレドモ、逆賊
ナリトテ首ウタレタリ、晴幸ハ一眼ニハアレド、
能ク人ヲ察スルノ明アリトイフベシ、

第十章

名優山中平九郎、或ル時我が家ノ樓ニ上リテ、鏡
ニ對ヒ、鬼女ノ面影ヲ工夫シ、トヤセンカクヤス
ベキト、眼ヲヨセ口ヲ開キ、暫クオモヒラ凝ラシ
テ、我ト恐ロシキバカリノ仕方ヲ工夫シ、カクテ
コソヨケレト、鏡ヲ手ニ把リテ、覺エズ立チ上リ、

鬼女ノ身ブリヲスル折シモ、其妻何ノ心モナク
樓ニ上リ、圖ラズ其アリサマヲ見テ、アト叫ビツ
、ノケサマニ倒レテ、絶エ入りヌ、家内ノ者ソノ
音ニ驚キテ、樓ニ集リ、藥ナド與ヘ、トカクシテ生
キカヘリヌ、平九郎思ヒケルハ、我が藝ノ精ニ詣
リタレバコソ、我妻スラカクノ如クナレ、況ヤ他
ノ觀者ヲヤト、大ニ悦ビ、則チ其工夫ヲ以テ狂言
セシニ、果シテ觀ル人膽ヲ寒シケルトゾ、ヨロツ
ノ業ニ精ナル者ハ、カ、ル心バヘゾアリタキ、

第十一章

寛永ノ頃、永井尚政頻ニ寵任セラレケルガ、或ル
時幕府ノ元老ナル、井伊直孝ニ邂逅セシニ、尚政
ノ曰ク、我弱年ニシテ殊恩ヲ蒙リ、重職ニ在ルコ
ト身ノ榮ナリ、足下ニハ、老功ニテマシマセバ、我
ガ心得トモ成ルコトアラバ、教ヘ示サレヨト言
フヲ、直孝打聞キテ、如何ニモ一ツ存ジ寄リタル
事アリ、傳ヘ申スベシ、サレド大切ナル事ナレバ、
輕ガロシクハ申シガタシ、愈聞カマホシトアラ
バ、更メテ我が宅ニ來ラレヨト答ヘタリ、尚政喜
ビテ、其日ヲ約シ、禮服ヲ着シテ詣リケルニ、直孝

之ヲ座ニ請ジ、サテイフヤウ、油斷大敵ト申ス事、
定メテ御覺エアラン、我が傳授外ニハナシ、此一
語ヲ守リテ忘レタマフナト教ヘケルトゾ、

第十二章

前言往行ヲ知ルハ、智徳ヲ長ズルノ道ナリ、前古
幾千年、善人君子ノ懿言アリ、英雄豪傑ノ卓行ア
リ、能ク聽ク者ヲシテ自ラ感興セシム、若シタバ
古人ノ言行ヲ尊ビテ、今人ノ企テ及ブマジキコ
ト、自ラ畫ルトキハ、其識見遂ニ前哲ノ上ニ出
ヅルコト能ハズ、鳥獸草木古ニ異ナラズ、特リ人

ノミ古今ノ差アルベケンヤ、勉ムレバ名士ト爲
リ、怠レバ俗士ト爲ル、令人勉強ノ功、懸ニ古人ニ
加フルコトアラバ、古人必ズシモ令人ノ上ニ立
タジ、令人豈必ズシモ古人ノ下ニ立タンヤ、語ニ
云ク、故キヲ温子テ新シキヲ知ルト、此意專ラ古
キ事ヲノミ温子ヨトイフニハ、非ズ、其新シキヲ
知ランコソ肝要ナレ、

第十三章

佛蘭西ノ人巴律士嘗テ以太利ノ名工ノ製スル
所ノ磁盃ヲ見、イカニモシテ其工ヲ奪ハント欲

シ、土器ヲ買ヒ藥物ヲ塗リテ、之ヲ焼ケドモ成ラ
ズ、屢試ミテ屢敗セリ、然レドモ精神益旺ニシテ、
爲ニ寢食ヲ廢スルコト數日ナレバ、妻子饑寒シ、
泣キテ之ヲ止ムルニ、巴律士更ニ心ニモカケズ、
擣煉スルコト益勉ム、家産全ク空乏シ、土器ヲ買
フコト能ハザルニ至リ、錢ヲ借リテ之ヲ買ヒ、竈
中ニ焼キシニ、薪柴殆ド盡キテ、磁未ダ成ラズ、乃
チ園牆ヲ撤シ、椅架ヲ毀チテ、火力ヲ助ク、妻子驚
愕シテ、狂セリト思ヘリ、而シテ磁器遂ニ成リ、光澤
愛スベシ、爾後愈精究シテ、上品ヲ製セシカバ、人

争ヒテ之ヲ買ヒ、直數百金ニ至リレトゾ。

第十四章

新井白石ハ、人ニ應接談話スル毎ニ必ず筆紙ヲ側ラニ置キ、我が心得ニナルベキ事、又ハ山水風土物産ノ類、古今人物ノ事ナド、聽クニ隨ヒテ劄記シ、閑暇ノ時ニ整頓シテ、著述ノ用ニ供セシトゾ、其心ヲ用キルコト深キガ故ニ、其博古今ニ傑出セリ、平生力學困勉ノ功、人ノ及ブ所ニ非ズ、サレド少年ヨリ、學業ニハ多ク屈辱ヲ受ケレコトアリト見エテ、曾テ言ヘルコトアリ、總身ニ恥耽

出來ルヤウニ修業スレバ、其技長進スト、人ノ屈辱ニ遇フハ、身ノ藥石ナリ、人屈辱ニ遇フコト多キガ故ニ、道藝長進ス、虚美耳ヲ薰ジ、容悦ノ言ノミ聞エテ、屈辱ニ遇フコトナキモノハ、自ラ怠慢ニ流レ易ク、天稟才識アル人ニテモ、道藝長進スルコト難シ。

第十五章

徳川幕府ノ時、伊能忠敬嘗テ沿海實測ノ命ヲ奉ジテ、將ニ發セントシ、客ヲ會シテ宴ヲ開キシニ、適梁上ノ乳燕席上ニ墮チテ死ス、家人不祥ト

シテ其行ヲ延ベンコトヲ請ヒケルニ、忠敬笑
 ヒテ曰ク、燕子誤リ墮チテ死ス、何ゾ吾事ニ關セ
 ント、起チテ將ニ草鞋ヲ穿タントセシニ、鞋忽チ
 斷チキレタリ、家人益驚キテ、固ク其行ヲ止メケ
 レド、翁ナホモ笑ヒテ曰ク、鞋繫ハ鐵ニ非ズ、時ア
 リテ斷エヌベン、怪ムニ足ラズト、行クコト未ダ
 跬歩ナラザルニ、家釀ノ大桶破裂シテ酒漿放流
 セシカバ、衆皆色ヲ失ヒ、相共ニ翁ヲ擁シテ、改メ
 テ起程ノ日ヲトセント乞ヒシカド、翁益笑ヒ、遂
 ニ袂ヲ投ジテ途ニ上リケルトゾ、其識ノ高キコ

ト想ヒヤルベシ、

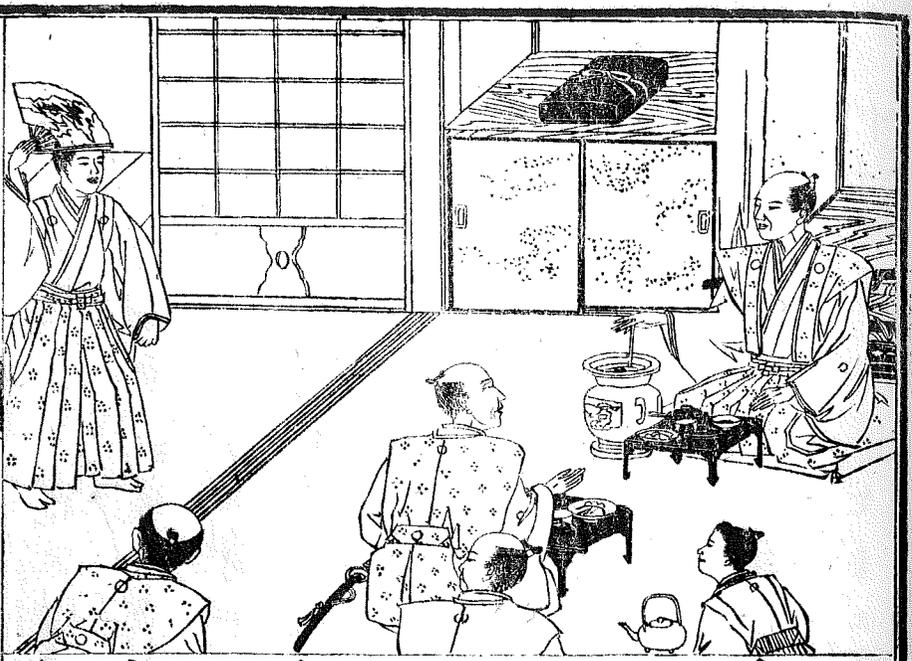
第十六章

支那晋ノ明帝幼カリシ時、父元帝問ヒテ曰ク、長
 安ト曰トハ孰レカ遠キ、對ヘテ曰ク、長安近シ、人
 ハ長安ヨリ來レドモ、日邊ヨリ來ラズト、其後マ
 タ問ヒシニ、對ヘテ曰ク、日近シ、頭ヲ擧レバ日ヲ
 見レドモ、長安ヲ見ズト、佛蘭西ノ星學士彼得、七
 歳ノ時、其友ト遊ビ居リシガ、月ノ前ニ雲ノ動ク
 ヲ見テ、或ハ月動クトイヒ、或ハ雲動クトイヒテ
 爭ヒタリ、彼得ノ曰ク、月モ動カヌニハアテ子ド

モ今動クモノハ雲ナリ、其證ヲ見セント、木ノ間ヨリ空ヲ窺ハシメシニ、月ハ動カズ、雲ノミ動クヲ見タリ、明帝ノカタハ一時ノ捷對ニシテ、智ノ秀デタルコトヲ見ルベク、彼得ノカタハ、實事ニヨリテ物ヲ究ムル格物ノ學ニ涉リテ、經驗ノ的確ナルヲ知ルベシ、

第十七章

酒井忠勝ハ、何ノ藝ニテモ絶エズ習ヒ試ミ、其子ニモ教ヘ勵シケルニ、能ノ一藝バカリハ、役者ノスルヲ觀テコソ面白ケレ、必ズ習ヒ知ラデ叶ハ



ザル事ニハアラジトテ、其子孫ニモ舞曲ナドハセサセザリキ、或ル年尾張侯忠勝ヲ招キ、饗應ニトテ、世子ニ能ヲ演ゼシメ、手ノ舞ヒ足ノ踏ムヲ觀ツ、誇リカナルオモ、チシテ、定メテ忠勝ハ感ズベシト思ヒケルニ、忠勝更ニ譽メザルノミ

小
學
讀
本
卷
三
三

カハ、ヒタスラニ之ヲ押し止メケリ、宴罷ミテ後
侯ノ老臣成瀬正成ニ、武家ハ武ヲ講ズルコソ本
意ナレ、大人公子ノ身トシテ、カ、ル賤シキ技サ
ラニ益ナシ、感ズル心ナカリシ故ニ止メタリト
語りケルトゾ、

第十八章

徳川家康濱松ニ在リシ時、安部川ノ磧ニ、人煮ル
釜ノアリシヲ見テ、之ヲ濱松ニ持タセ遣スベシ
ト命ジケレバ、奉行承リテ濱松ニ輸ル、途ニテ水
多作左衛門ニ遇ヒシニ、作左衛門仔細ヲ問ヒテ、

乃チ役夫ニ命ジ、其釜ヲ打碎カセテ捨サセ、サテ
奉行ナル人ニ言ヒケルハ、濱松ニ參リテ、天下ノ
政務ヲ執リタマフベキ御身ニテアリナガラ、其
下ニ立ツ人ノ煮殺サルベキ程ノ罪ヲ犯スヤウ
ナル政事ヲシタマフモノニヤ、作左衛門ガ申シ
テ、釜ヲバ打碎カセタリト、具サニ申セ、一言ヲダ
ニ申シ違ヘナバ、後アシカルベシト、下知シケル
程ニ、奉行歸リテ其由ヲ述べケレバ、家康大ニ慙
ヂテ、頓テ作左衛門ヲ召シテ、我誤リタリ、ユルセ
ヨトアリケレバ、作左衛門涙ヲ流シテ喜ビケル

第十九章

僧ノ惠心ノ妹安養尼ノ許ニ、強盜押シ入リテ、有
 ルホドノ物ヲ奪ヒ取リケレバ、尼ハ紙衾ヲ打カ
 ツギテ臥シ居タリケルニ、姊尼ノ許ニ小尼ノ有
 リケルガ、賊ノアトニ走り往キ見レバ、賊ハ小袖
 ヲ一ツ遺シタリ、是遺シテ侍ルナリトテ、モテ來
 リケルニ、尼ノ曰ク、彼取リテノ後ハ、我ガ物トコ
 ソ思ヒツラメ、イマダ遠クハユカジ、疾ク持チ往
 キテ取ラセヨトアリケレバ、走り出デ、ヤ、ト

呼ビカヘシ、是ヲ遺サレタリ、タシカニ渡シ參ラ
 スルナリト言ヒケルニ、盜人ドモ立ちトバマリ
 テ、物案ジタル氣色ニテ在ケルガ、ヤガテ取リタ
 ル物ドモヲ、悉ク差置キテ、何處トモナク去リケ
 ルトゾ、

第二十章

語ニ曰ク、人ハ百歳ナルコト能ハズ、只當ニ志不
 朽ニ在ルベシ、志不朽ニアルトキハ、業朽チズ、業
 不朽ニ在ルトキハ、名朽チズ、世々子孫モ亦朽チ
 ズトイヘリ、言フコ、口ハ、人ノ命ハ百年ヲ保ツ

コトモ稀ナレバ、決シテ千歳ノ後マデ存スベキ
理ナシ、但シ其命數ニハ限アレド、其志業ハ不朽
ニ傳ハル者ナリ、何ノ業ニモアレ、一生ノ中ニ志
ヲ立テ、成シ置キタルホドノ事ハ、其大小ニ隨
ヒテ、或ハ三百年五百年ノ後ニ傳ハリ、或ハ千年
二千年ノ後ニ傳ハリテ、何ノ事ハ某氏ノ遺法ナ
リ、何ノ業ハ某氏ノ創造ナリト、其永ク傳ハラン
コト、生命ノ百歳ヲ限ルガ如クナラス、其志業永
遠マデ傳ハラバ、其名モ亦隨ヒテ朽チザルベシ
嗚呼其レ人トシテ志業ナカルベケンヤ、

第二十一章

英吉利ノ人阿アーク克クラ來素ヨリ貧シカリケルガ、修髮
ヲ業トシ、物理ブツリヲ研究スルヲ以テ樂トセリ、嘗テ
一ツノ自ラメグリテ止マザル器ヲ創セント思
ヒ、考ヘ索ムルコト數年ナリシガ、未ダ成ラザル
ニ、本業既ニ廢レテ窮スルコト甚シ、近隣ニ織物
ヲ業トスル者甚ダ多クシテ、紡工ノ給セザルコ
トヲ見テ、益新ニ機器ヲ造リ出シテ、人工ニ代ヘ
ント欲ス、妻ソノ機巧ヲ試作シテ、終日癡ノ若キ
ヲ見テ、屢諫ムレドモ聽カズ、妻恚リテ其諸具ヲ

毀チケレバ、阿克來妻ヲ逐ヒテ、再ビ故ノ如クニ
造リヌ、功ノ成ルニ迨ビ之ヲ試ルニ、其奇巧ナル
コト殆ド人工ノ比ニ非ズ、一基ノ氣機能ク百夫
ノカニ抵ルニ足レリ、事君主ニ聞ユ、其創法甚ダ
善ク且ツ國ヲ益シ民ニ便スルヲ以テ、爵ヲ錫ヒ
テ賞セラレシトゾ、

第二十二章

支那元ノ成宗嘗テ十二事ヲ以テ自ラ誡メ、且ツ
其子孫ヲシテ之ニ遵ハシメタリトゾ、其第八ノ
誡ニ曰ク、何事ヲ企ツルニモ、一心決行シ、心ヲ其

企ツル事業ニ専用ニシ
テ之ヲ成スニ非ザレバ、
決シテ手ヲ放ツベカラ
ズト、成宗又云ヘルコト
アリ、曰ク、余嘗テ敵ノ攻
撃ニ逢ヒ、身ヲ避ケント
シテ、廢屋ノ中ニ潜匿セ
シニ、暫クアリテ、偶小蟻
ノ穀粒ヲ銜ミテ壁ニ登
ルヲ見ル、蟻半途ニシテ



穀粒ヲ墮スコト六十九回ナリ、然レドモ敢テ屈スルコトナク、之ヲ銜ミテ更ニ登ルコト一次、遂ニ高壁ノ上ニ達シタリ、余當時困憊ノ餘、殆ド前途ノ望ヲ絶チシガ、蟻ノ忍耐ヲ見テ、勇氣忽チ勃興シ、爾來曾テ之ヲ忘レザリシト、英名ヲ百世ニ轟シ、偉業ヲ後昆ニ貽セル所以ノモノハ實ニ堅忍不屈ノ人ニ非ザレバ能ハザルナリ、

第二十三章

徳川家光或ル年ノ冬、自ラ鷹ヲ鴈ニ合セケルニ、其鷹鴈ヲ取りテ池中ニ落チタリシガ、薄氷ノ上

ナル故ニ、鷹モ故タズシテ居タリ、トカクスルウチ、今ハ早放チモシツベク見エシヲ、一人ノ徒士氷ノ中ニ飛ビ入りテ、難ナク鷹ヲ居エ揚ゲテ鴈ヲ取り、氷ヲ碎キツ、泳ギ上リケレバ、皆之ヲ稱シテ、必ズ擢デラルベシト評シアヘリ、然ルニ當時何ノ賞モナク、其翌年ノ冬ニ至リテ、ソレトハナシニ擢デラレヌ、其後家光談話ノ次、此事ヲ言ヒテ、先ニ鷹ノ水中ニ落チタル時、即チ彼ヲ褒メタランニハ、又々續キテ水ニ飛ビ入ル者アラン、然ラバ人ヲ傷ハンコトモアルベキカトテ、故テ

ニ之ヲ譽メザリシナリト言ヒシトゾ、

第二十四章

亞米利加ノ某地ニ兄弟二人ノ童子アリ、冬ノ日ニ雪ヲ犯シテ歩ミケルガ、路ノ傍ニ倒レタル人アリ、兄近ヅキテ之ヲ見ルニ、熟眠シテ死セルガ如ク、呼ベドモ答ヘズ、動セドモ覺メズ、弟笑ヒテ曰ク、兄ウヘ止メタマヘ、彼ハ極メテ醉ヘリ、ヤウナキコトニ候ハズヤ、只打捨テ、行キタマヘト、兄ノ曰ク、此マ、ニシテアランニハ、凍死センモ知ルベカラズ、弟ノ曰ク、ソハ自ラ作セル藁トイ

フモノナリ、兄ノ曰ク、人豈過ナキコトヲ得ンヤ、彼過チテ醉ヒ倒レタレドモ、人トシテ之ヲ救ハザルコトヤアルト、獨リ留リテ雪ヲカキ集メ、其體ニ掩ヒ、里ノ方ヘト走セ行キテ、一農夫ニ逢ヒ、其事ヲ告ゲ、共ニ橈ヲ持チ來リテ、醉客ヲ載セ、近キワタリノ家ニ往キテ介抱セシカバ、暫シガホドニ醉ヒ醒メテ、深ク自ラ恥ヂ、其後酒ヲ禁ジテ端正ノ人トナリシトゾ、

第二十五章

支那周ノ末衛ノ國ニ、蘧伯玉トイヘル賢大夫ア

リ、此人二十歳ノ時、十九歳マデノ過ヲ改メタリ、然ルニ二十一歳ニ至リテ見レバ、去年ノ改メタリト思ヘルハ、猶非ナリト知リテ、又是ヲ改メ、二十二歳ニ至リテ、又去年ノ非ヲ改メ、二十三歳ニ至リテ、又去年ノ非ヲ改ム、此ノ如ク年ゴトニ改メユキテ、五十歳ニ至リ、猶四十九年ノ非ナルコトヲ知リシトカヤ、蓬伯玉ノ如キ賢人スラ、五十年ニ至リテ、猶改メ盡サレヌ者ト見エタリ、況ヤ凡流ノ者ハ、過惡日々ニ積ルベケレドモ、心躁シク眼昏ケレバ、是非ヲ別チ難シ、但分チ難キノ

ミニ非ズ、サセル惡事ハナキヤウニ、心ニモ思ヒ口ニモ言ヒテ打過グスハ、淺マシキ事ナルベシ、

第二十六章

新田義貞ノ士篠塚重廣ノ女ナル伊賀局ハ、後村上天皇ノ母新待賢門院ニ仕ヘシガ、正平ノ始高師直吉野ノ行宮ヲ襲ヒ奉ル時ニ、拒グベキ策ノナカリケレバ、人々山深ク分ケ入リケルガ、女院ニハ、僅ニ後宮數人ヲ從ヘシノミニテ、ハカバカシキ士トテハ從ヒ奉ラズ、吉野川ノ橋板一間ホド斷チテアリケレバ如何ガハセント皆アキ

レテアリケルニ、局其邊リノ松櫻ノ大ナル枝ド
モヲ引キ折リ、ウチ渡シテ、女院ヲ負ヒ奉リ、人々
ヲモ濟シケリ、敵退キテ後ニ、其時ノ大サナル枝
ヲ、力強キ士ニ手折セテ御覽アリケレド、折リ得
ズシテ止ミヌ、イト勇壯ナルコトニゾアル、

第二十七章

佛蘭西ノ小賈雅克、父ト共ニ生業ヲ勵ミケルガ、
其後父ハ病ノ牀ニ就キテ、モテル貨物サヘ價ヲ
減ジ、イタク零落シテ數多ノ債ヲ負ヒヌ、雅克時
ニ年二十二ナリ、謂ヘラク、我が身ハ父ノ賜モノ

ナレバ、父ノ爲ニハ惜ムベキコトヤアルト、其頃
國ニ戰爭アリテ、夫卒ヲ募リケレバ、或ル富人ノ
子ニ代役ヲ約シ、若干ノ金ヲ得テ、父ノ療費ニ充
テ、且ツ其債ヲモ償ヒタリ、カクテ暇ヲ告ゲ、ル
ニ、父イタク悲ミケレバ、雅克ハ懇ニ慰メテ曰ク、
戰陣ハ吾が大ニ好ム所ナリ、憂念セサセタマフ
コト勿レトテ、涕ヲ收メ糧ヲ負ヒテ出デ行キヌ
其後六年ガ程ヲ經テ、雅克ハ肩ニ肩總ヲ垂レ、胸
ニ勲章ヲ掛ケ、武功ヲ表シテ家ニ歸リケレバ、父
大ニ悦ビテ、毎ニ人ニ語りテ以テ譽トセシトゾ、

皇清
卷三
二十一
金
珠
堂

第二十八章

永田德本江戸ニ在リケル時、德川家光病アリ、衆醫手ヲ盡セドモ、其驗ナカリケルニ、誰ガ言ヒタリケン、德本ヲ召シテ療セシメケルニ、日ナラズシテ平愈セシカバ、其賞トシテ物ヲ賜ヒケレド、敢テ受ケズ、タゞ一貼十六文ノ藥料ヲノミ乞ヒケレバ、人々其清白ヲ稱シアヘリ、此事家光ノ耳ニ入リテ、何ニマレ、願フ事アラバ申スベキヨシヲ、頻ニ命ゼラレシカバ、サラバ我が友ノ中ニ、家ナキヲ悲ム者アリ、是ニ家ヲ賜ハゞ、猶吾ニ賜フ

ガコトクナラント申シケル程ニ、即チ甲斐國山梨郡ノ地ニ金ヲ添ヘテ賜ヒヌ、德本ヤガテ其者ヲ呼ビテトラセ、其身ハ藥籠ヲ負ヒテ、甲斐ノ德本一服十六文ト呼ビテ、行エシラズナリシトゾ、

第二十九章

支那周ノ末、呉ノ季札或ル年國王壽夢ノ命ヲ受ケテ、他國ニ使シ、徐ノ國ニ立チ寄リケルニ、其君季札ガ佩劍ヲ見テ、望ニ耐ヘカ子レカド、口ニハ言ヒモ出デガリケルニ、季札早クモ其心子ヲ推シ、與ヘナントハ思ヘドモ、晴ナル上國ニ使スル

コトナレバ、先ヅ其マ、
ニ別レテ、還リノ程ニハ
必ズ之ヲ讓ランモノヲ
ト、心ニ思ヒ定メケルガ、
サテ用果テ、歸ルサニ、
徐ノ君ハハヤ無キ人ノ
數ニ入リケレバ、乃チ其
墓ニ行キテ、腰劍ヲ解キ、
カタヘノ樹木ニウチ懸
ケテ去リヌ、從者ドモ怪



ミテ、徐ノ君已ニ死シタルヲ、誰ニカ予ヘタマフ
ト問ヒケルニ、サレバトヨ、我疾ク心ニ許シツ
レド、今ハハヤカ及バズ、サハアレド、己ガ心ニ倍
クベキヤウナシト言ヒケルトゾ、

第三十章

或ル人^{エル}洼^{モシト}滿^ト的ノ小山ヲ馬ニテ越エケルニ、飛雪
絮ノ如ク、寒風膚ニ徹シケレバ、行ク行ク凍エ死
ヌベクゾ覺エタル、行クコト半里許ニシテ、馬跌
キテ進マザリケレバ如何ハセントタメテフヲ
リカラ、雪ノ積リテ人ノ形ヲ成シタルガ、傍ニ兀

坐セルヲ見テ、怪ミテ馬ヨリ下リ、雪ヲ掃ヒテ探
リケルニ、女子ノ小兒ヲ擁シタルガ、ハヤ息絶エ
テ、小兒ノミ獨リ微笑シタリケレバ、且ツハ驚キ、
且ツハ悲ミ、小兒ヲ取リアゲ、女子ヲ介抱シ、聲張
リアゲテ呼ビ活ケントスレド、應フル者ハ山オ
ロシノコダマニ響クバカリナリ、熟ラ女子ノ有
様ヲ視ルニ、憐レヤ身ニハ襦袢ノミ著テ、衣服帶
紐ハ皆小兒ノ身ニ纏ヒ、其身ハ遂ニ凍死セルナ
リケリ、今ハ早センスベナシトテ、小兒バカリヲ
懷ニシ、辛ウジテ某村ニ著キテ之ヲ扶ケ、ルト

ゾ、

第三十一章

人ニ善ヲ勸メ惡ヲ諫ムルハ、美キ事ナレド、先ツ
須ク自ラ省ルベシ、己朝ニ立チテ稱譽アリテノ
後ニコソ、始メテ人ニ誨フルニ朝ニ立ツノ方ヲ以
テスベケレ、己政ニ臨ミテ成績アリテノ後ニコ
ソ、始メテ人ニ誨フルニ、政ニ臨ムノ術ヲ以テス
ベケレ、己ガ才學人ニ尊バレテノ後ニコソ、始メ
テ人ニ誨フルニ、進修ノ要ヲ以テスベケレ、己ガ
性行人ニ重ンゼラレテノ後ニコソ、始メテ人ニ

誨フルニ、操履ノ詳ヲ以テスベケレ、己ガ身富ミ
テノ後ニコソ、始メテ人ニ誨フルニ、治家ノ法ヲ
以テスベケレ、父母ニ事ヘテ、能ク諧和シテノ後
ニコソ、始メテ人ニ誨フルニ、孝行ノ道ヲ以テス
ベケレ、サナクバ人ニ聽カレヌノミナラズ、及リ
テ人ニ笑ハレナン、

第三十二章

支那周ノ末孔子ノ門人仲由、親ノ没後ニ孔子ノ
前ニ進ミ出デ、往事ヲ語りテウチ歎キ、我が親
ノ存命ノ時、家貧シクテ養フニ便ナシ、如何ニモ

シテ養ハバヤト、我ハ蔬食ヲ飯ヒ藜藿ヲ羹ニシ、
百里ノ遠キ道ニ米ヲ負ヒ、價ヲ取リテ美膳ヲ供
セリ、重キヲ負ヒ遠キニ涉ルトキハ、地ヲ擇バズ
シテ休フ、家貧ク親老ルトキハ、禄ヲ擇バズシテ
仕フトハ、今コソ心ヅキタレ、我が身ハ今ハ楚ニ
事ヘ、大夫ノ官ニ登リ、家ニ萬鍾ノ粟ヲ積ミ、内ニ
坐シテハ暖カキ茵ヲ累子、五鼎ヲ連子テ食フ、外
ニ出レバ百乘ノ從車ヲ從ヘ、富貴ノ二ツヲ具ヘ
タレド、親ノ死セシ後ナレバ、常ニ心ニ樂マズ、蔬
飯ヲ食ヒ、身ヲ苦メテ、親ノ爲ニ米ヲ負フトモ、親

ノ存ヘマサンコトコソ願ハシケレト述ベケレ
バ、孔子深ク其志ヲ感ジケルトゾ、

第三十三章

支那後漢ノ人陳寔ノ家ニ、或ル夜盜賊忍ビ入り
テ、ヒソカニ梁ノ上ニ隱レ居タルヲ、寔知リテ、家
族ドモヲ呼ビ集メ、色ヲ正クシテ告グルヤウ、人
タル者ハ、惡ヲ去リ善ニ遷ラズバアルベカラズ、
人ニ不善ハナキモノヲ、タゞ習ニヨリテ遂ニ惡
シキニ陷レリ、梁上ノ人は然リトテ、指サシ示シ
タリケレバ、盜ハアルニモアラレズ、自ラ梁ヲ下

リテ、深ク前非ヲ打謝ビケルヲ、寔憐ミテ曰ク、子
ノ容貌ヲ察スルニ、固ヨリ惡シキ人トモ覺エズ、
思フニ必ズ貧困ニヨリテ、カク淺マシキワザヲ
行フナラン、努々道ニ違ヒタルコトヲスベカラ
ズトテ、ヤガテ絹二匹ヲ惠ミ與ヘシカバ、盜大ニ
感愧シテ去リケルガ、此事遠近ニ聞エケルニヤ、
寔ガ縣ニハ、是ヨリ盜賊ノアト絶エシトゾ、

第三十四章

羯磨乘親ハ、極メテ面打ノ上手ナリケルガ、一ト
セノ内ニ、一ツダニ打チヲヘズ、性酒ヲ好ミテ、醉



ヒタル餘リニ舞フコト
 ヲ樂ミトセリ、アル日老
 母ノイヘリケルハ、早米
 ノ櫃ニハ蜘蛛ノ巢ヲ懸ケ
 タリ、汝が業ヲ勵ミテヨ
 ト責メケレバ、乗親驚キ
 テ、サアラバ今日ヨリシ
 テ懈ラズ打ツベシトテ、
 一室ノ中ニ籠リケルガ、
 四五日ヲ經テ、面ヲ打チ

テ、アツラヘタル方ニ持チ行キ、料ヲ持チ歸リテ、
 母ニ進メケレバ、母悦ビテ言ヘルハ、面イクツ打
 チテカ、カクハ多クノ金ヲ得シト問フニ、ハオモ
 テ打チタリ、サレド心ニ適ハザルガ七面アレバ、
 皆家ニ殘シヌトテ、取出シ見セタリ、イツレモ鬼
 女ノ假面ナリケレバ、見ルサヘ恐ロシトテ、傍ニ
 置キケリ、其夜盜人入りテ、親子卧シタル所ヲ伺
 ヘリ、母ヤガテ起キ出テ、彼ノ鬼面ヲ顔ニ覆ヒ
 テ、眼ノ穴ヨリ見ナガラ、ヤヨ盜人ノ入りタルゾ、
 乗親起キヨト言ヒケルヲ、盜人見テ驚キ號ビ、何

處トモナク逃ゲ失セシトゾ、

第三十五章

凡ソ人ノ師トナル者ハ人ヲ教フル責任アルガ故ニ、各其道ニ通曉セズバアルベカラズ、人ノ病ハ、好ミテ人ノ師トナルニ在リトテ、己學未ダ成ラズ、業未ダ遂ゲズシテ、人ノ師トナラント欲スル者ハ、帝ニ謗ヲ其身ニ來スノミナラズ、人ノ子弟ヲ賊フコト多シ、人ノ疑義アルニ己未ダ明ナラズシテ、膚淺ノ説ヲ以テ示ストキハ、聽ク者識アラバ我ヲ笑フベク、來リテ益ヲ求ムル者ナラ

バ、疑團解スベカラズ、其臆説妄議モ一タビ之ヲ信ズルトキハ、先入主トナリテ、大ニ子弟ノ知識ヲ妨ゲシムルニ至ルベシ、師道ノ重キコトハ、人ノ父母ニ亞ギ、子弟ヲ薰陶シテ、其適從スル所ヲ知ラシムル者ナレバ、學術技藝ハイフモ更ナリ、其品行ヲ檢束スルコト、常人ヨリハイト謹嚴ナルベシ、

第三十六章

貝原益軒嘗テ湊川ヲ過ギテ、楠氏ノ舊ヲ追想シ、公ノ梗概ヲ片石ニ記シ、永ク遺跡ヲ存セシメン

モノヲト、兵庫ノ富商某ニ謀リ、ヤガテ碑文ヲ撰
ビテ與ヘケレバ、某喜ビテ石工ニ命ゼントセシ
ニ、益軒ノ使者兵庫ニ來リテ、其稿ヲ求メケレバ、
文章ヲ改刪セントテノ事ナルベシトテ、使ニ付
シテ還シケルニ、マタ使ヒシテ言傳セルハ、楠公
ノ勲功ハ、日月ニモ比スベキヲ、予ガ如キ淺學ノ
筆モテ記シタランニハ、僭越ノ罪深カリナン、サ
レバ此事思ヒ止リヌ、麓忽ノ約ヲナシタリシコ
ト許シタマヘトアリシカバ、某ハイト本意ナク
思ヒケリ、今現ニ湊川ニ建タル碑ハ、是ヨリ後ニ

徳川光圀ガ歸化ノ人朱之瑜ヲシテ撰セシメタ
ルナリ、益軒ノ篤實此一事ニテモ知ルベシ、

第三十七章

或ル人文盲ナル者ニ忠告シテ、世ヲ渡ルニハ唯
堪忍ノ二字ヲ能ク守ルベシト言ヘバ、文盲ナル
人頭ヲ傾ケ指ヲモテ數ヘ、其許ニハ思シメシ違
ヒナルベシ、カンニントハ四字ニテアリケリト
言ヘバ、忠告セシ人ノ曰ク、愚昧ナル人カナ、堪忍
トハ、タヘシノブト讀ミテ、二字ナリト言ヘバ、又
頭ヲ傾ケ、タヘシノブナラバ、又一字加リテ、五字

トナルベシ、何ト仰セアリトモ、我ハ四字ト思ヒ
ヌレバ、四字ニテカンニンヲバスルナリト言ヘ
ルニ、其人又曰ク、汝が如キ文盲ハ、實ニ論シ難シ
己が意ニ任スベシト、大ニ憤リケレバ、文盲ナル
人笑ヒテ、何トモ仰セアルベシ、我ハカンニンノ
四字ヲ知リタレバ、如何ニ罵リタマフトモ、怒リ
ハセジトテ笑ヒ居シトゾ、

第三十八章

昔艾那ノ或ル國ニ、愚公ト云ヒシ人アリケルガ、
家居近ク山ノアリシヲ厭ヒテ、他ニ移サントテ、

日ゴトニ子ドモヲ具シテ出デツ、手ヅカラ耒
耜ヲ把リテ、一簣ヅ、毀チトリケルヲ、智叟ト云
ヒシ人は是ヲ見テ、カク大ナル山ヲ、僅ナル人ノ力
ニテ毀テバトテ、毀チ盡サルベキカト、其愚サヲ
笑ヒケレバ、愚公聞キテ、我が代ヨリ毀チソメテ、
我が子ノ代ニモ繼ギテ毀チ、我が孫ノ代ニモ、又
其子ノ代ニモ、繼ギテ毀チナバ終ニハ移サレヌ
事ヤアルト言ヘバ、智叟愈笑ヒケルトナン、凡ソ
世ノ中ノ事、愚公が心ナルハ、遅クトモ成就スベ
シ、然ルニ、世ニ智アリト稱スル程ノ人ハ、大カタ

智叟ガ心ニテ愚公ガ山ヲ移ス如キ事ヲ聞キテハ、其愚ヲ笑フ程ニ、何事モ其功ヲ成就セヌナルベシ、然レバ世ノ所謂愚ハ反リテ智ナリ、世ノ所謂智ハ反リテ愚ナリ、察セズバアルベカラズ、

第三十九章

一惰農アリ、逸樂ニ耽リテ、多クノ債ヲ負ヒケレバ、持テル田園ノ半ヲ賣リテ之ヲ償ヒ、残ル半ハ年ヲ限リテ人ニ貸シ、其地税ヲ以テ纔ニ生ヲ營ミシガ、期限満チントスルトキ、遂ニ之ヲ賣リ渡スコト、ハナリス、其時惰農猶悔イズシテ曰ク、

向ニ我が有セシ田園ハ、今汝ガ耕ス所ニ倍シ、地税ヲ出スコトサヘモナカリシニ、日ニ月ニ貧ニ迫リテ、終ニ半ヲ賣ルニ至レリ、汝ハ是ニ反シテ、久シク吾ニ地税ヲ致シ、剩ヘ之ヲ買ハント云フハ如何ゾヤト云ヒケレバ、答ヘテ曰ク、子ハ家ニ安居シテ、飲食ヲ貪リ、衣服ニ奢リ、勞ヲ人ニ譲リテ自ラ逸ス、是レ財ヲ往カシムルノ理ナリ、我ハ夙ニ起キ、夜ニ寐シ、勞ヲ厭ハズシテ自ラ勉ム、是レ財ヲ來ラシムルノ理ナリ、子が往カシムルモノ我ニ來ル、何ゾ怪ムニ足ラント云ヒシトゾ、

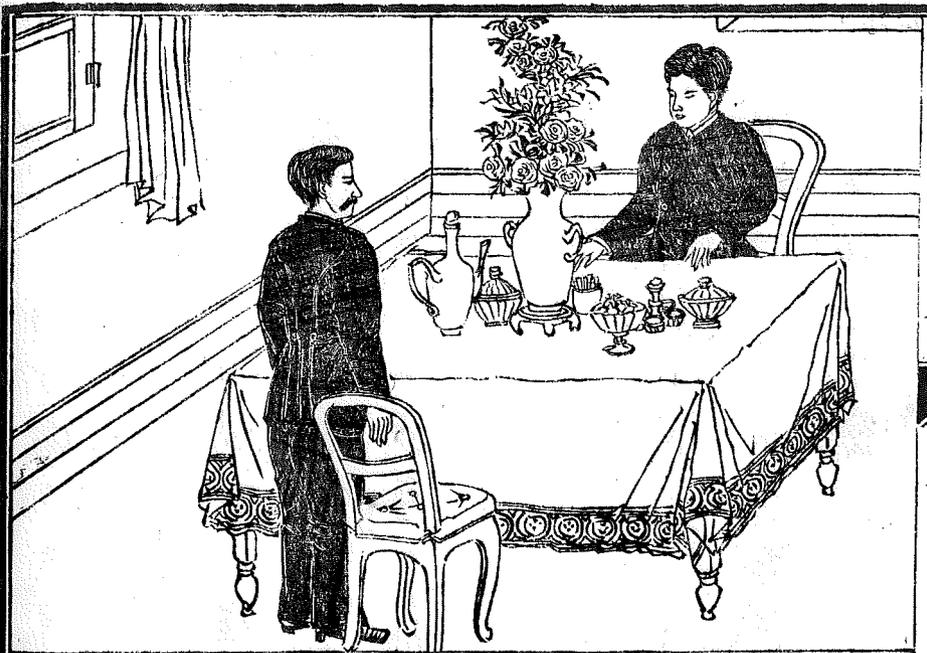
第四十章

先哲ノ曰ク、我人ヲ愛スレバ、人モ亦我ヲ愛シ、我人ヲ惡メバ、人モ亦我ヲ惡ムト、人ノ我ニ對スル愛惡ハ、我が人ニ對スル愛惡ヨリ生ズルコト、猶我が顔面ノ鏡ニ映ズルガ如シ、我が顔美ナレバ、其影モ亦美ナリ、我が顔醜ナレバ、其影モ亦醜ナリ、怒リテ之ニ對スレバ、其影必ズ怒リ、笑ヒテ之ニ對スレバ、其影必ズ笑フ、人ノ我ニ於ルモ、亦此ノ如シ、鏡ノ中ニ曲鏡ト云フモノアリテ、之ニ對スルトキハ、其人ノ善キ惡シキニ拘ラズ、必ズ惡

シキ狀ヲ寫シ出ストゾ、サレドコハ希ナルコトニシテ、常ニアルニハ非ズ、人ハ猶鏡ノゴトシ、千萬人ノ中ニハ、曲鏡ノ性アル人アリテ、我彼ヲ愛スレドモ、彼我ヲ愛セズ、却リテ我ヲ惡ムモアルベシ、サレドモ、多年ノ後ニハ、彼自ラ前非ヲ悔イン、鏡ノ曲ハ改ムベカラズ、人ノ曲ハ改ムベシ、人ノ曲ニハ關スルコト勿レ、惟一ニ我ヲ慎ムベシ、

第四十一章

亞米利加ノ人、若爾治、華聖頓、少カリシ時、一營兵ニ將トシテ、亞勤散德亞ニ次シケルガ、沛業トイ



フ人ト事ヲ論ジテ合ハ
 ガリケレバ、激語ヲ以テ
 之ヲ犯シ、ヲ沛業怒リ
 テ、杖ヲ以テ華聖頓ヲ擊
 チ倒セリ、營兵之ヲ聞キ
 テ、報復ヲ圖ラントセシ
 ヲ華聖頓オシ止メテ、己
 ガ營ニ歸リ、以爲ヘラク、
 曲我ニ在リ、謝セズバア
 ルベカラズト、次ノ日人

ヲ沛業ガ許ニ遣シテ、言ハシメケルハ、願クハ酒
 舗ニ相見ント、沛業謂ヘラク、是必ズ我ニ復スル
 ナラント、至レバ則チ酒榖案ニ陳シテ、寸兵ヲダ
 ニ見ズ、華聖頓從容トシテ謂テ曰ク、人孰カ過ナ
 カラン、能ク之ヲ改ムルヲバ貴シトス、僕昨日罪
 ヲ足下ニ得タリ、足下モ亦既ニ我ニ報ゼラル、足
 下已ニ足レリトセバ、今ヨリ相約シテ朋友トナ
 ラント、沛業大ニ感ジ、是ヨリ深ク交ヲ結ビシト
 ズ、

第四十二章

支那晋ノ時ノ人、荀巨伯、其友ノ他國ニアリケルヲ尋子行キテ逢ヒケルニ、病ニ卧シテ、起クルコト能ハザリケレバ、之ヲ看護シテ在リシホドニ、俄ニ兵亂アリテ、軍兵コ、ニ攻メ入リケレバ、家内ノ者皆逃ゲ匿レテ、病人獨リヲ棄テ置キタリ、巨伯ハ友ヲ棄テ、行クベキ道ナラズトテ、看護シテ居ケルホドニ、軍兵來リテ、汝ハ何者ナレバ、家人皆逃ゲウセタルニ、獨リコ、ニハ居ルゾトイフ、巨伯對ヘテ曰ク、我ハ他國ノ者ナルガ、我が友ニ逢ハントテ來リシニ、重キ病ニ罹リテ在レ

バ、之ヲ棄テ、逃グルハ道ニアラズトテ、カクハ留マレルナリ、願クハ我ヲ殺シテ、此友ヲ助ケラレヨト、涙ナガラニ乞ヒケレバ、兵ドモ大ニ感ジテ、其家ヲ去リヌ、危キニ臨ミテ契リヲ忘レザル心バヘ、イトアリガタキコトナリ、

第四十三章

佛蘭西ノ貧人馬爾塞ノ夫婦死シテ、二人ノ幼兒ヲ遺セリ、ソノ住メルアタリニ、羅伯爾ト云フ人アリ、貧窶ニハアレド、身ヲ勞シ業ヲ營ミテ、幼兒三人ヲ養ヒヌ、一日羅伯爾其妻ニ謀リテ曰ク、我

馬爾塞ノ孤兒ガ餓ウルヲ見カ子タリ、之ヲ養ハ
ンハイカニ、妻ノ曰ク、我が家貧窶ニシテ、三兒ヲ
養フサヘモ、既ニ甚ダ勞セルヲ、ナドテ、五兒ヲバ
養フベキ、羅伯爾ノ曰ク、我等ノ食餌四分ノ一ヲ
餘シテ之ヲ養ハズ、養ハレヌトイフコトヤアル
トテ、遂ニ之ヲ携ヘ歸リ、夫婦拮据シテ、五兒ヲ養
育スルニ偏愛ナカリシガ、イツシカニ孤ハ成長
シテ工人トナリ、一週毎ニ其工錢ヲ羅伯爾ニ致
シケレバ、後ニハ富メル家トナリシトゾ、

第四十四章

徳川家康其臣成瀬正成等數人ニ各一萬石ヲ與
ヘケルガ、中ニ安藤直次一人ハ横須賀五千石ヲ
賜リヌ、コハ家康ガ均ク一萬石ナリト思ヒ誤リ
テナリ、十餘年ヲ過ギテ正成直次等伺候セシニ、
家康、汝等各一萬石ノ領地ヲ受ケヌ、イカニ政ヲ
スルゾトアリケレバ、正成臣等ハ皆一萬石ヲ賜
ハリヌレド、直次ノミハ五千石ナリト答ヘタリ、
家康驚キテ、吾横須賀ヲ以テ實ニ一萬石ト思ヘ
リ、汝等均シク我ニ功アルヲ賞セシニ、何ゾ多少
ヲ分タン、然ルニ直次之ヲ色ニダモ顯サズ、詞ニ

ダモ出サズ、怨ミズ愠ラズシテ、今日ニ至リタル
ハ、奥ユカシキ心底ナリトテ、乃チ五千石ヅ、十
餘年分ノ穀ヲ積ミテ一度ニ賜ヒヌ、總テ之ヲ算
フレバ、受クル所四五萬石ニ及ベリ、是ニ由リテ
直次ノ家俄ニ富饒トハナリヌ、

第四十五章

野々村彦左衛門加藤清正ニ仕ヘテ、祿三百石ヲ
受ケ、肥後ノ熊本ニ住ミケルガ、其它地六百坪バ
カリ割リワタサレシニ、先ヅ五十坪バカリニ家
ヲ作り、三百坪ヲ圃トナシ、二百五十坪ニ粟梅茶

ナドヲ植エ宅地ノ外圍ニハ皂莢ト柳トヲ栽エ
タリ、皂莢ハ生枝ヲ燒クニ、ヨク燃ユベク、且ツハ
新芽ヲ食料ニ充ツベシ、柳モ亦薪トスベシ、十年
バカリノ内ニ、皂莢五十株、柳五十株、粟二十株、梅
百株、茶五十株繁茂シケレバ、皂莢ノ實ヲ采リテ、
衣服ノ垢ヲ去リ、其餘レルヲバ、賣リテ物ニ換ヘ、
茶モ我が家ニテ餘リアレバ、親戚ニ贈リテ、餘レ
ルヲ賣リ、梅子ハ年々五百石ヲ收メシトゾ、サレ
バ、三百石ノ祿ニテ、馬二頭、侍四人、下部五人ヲ養
ヒ、武器ノ用意モ他ノ千石ヲ領スル士ヨリ備ハ

リシトゾ、

第四十六章

北條時氏ノ妻ハ時頼ノ母ニシテ、後ニ松下禪尼ト云ス。時頼鎌倉ノ執權ト爲リテ、勢威並ブ者ナシ、或ル時禪尼手ヅカラ障子ノ紙ノ破ヲ繕ヒテ居タリケルガ、折フシ兄ノ安達義景來リテ、此體ヲ見テ驚キ、何故ニ人ニハセサセラレズシテ、自ラカ、ル鄙キ業ヲセラル、ゾ、我が許ニ此事ニ慣レタル者アシバ、召シヨセテ、殘ラズ張リ替ヘサスベシト言ヒケルニ、禪尼否トヨ、我モ亦後日

ハシカセント思ヒツレド、總テ何物モ少シク損ジタル時ニ繕ヒ置ケバ、大破ニハ至ラヌモノナリ、今日ハ時頼ガコ、ニ來ルベケレバ、能ク物ノ理ヲ教ヘ示サント思ヒテ、故ラニカクハ自ラ繕ヘルナリト答ヘケレバ、義景大ニ歎服シテ退キ



又時頼幕府ノ政ヲ執リテ、無用ノ費ヲ省キ、天下ノ民心ヲ得タルハ、禪尼ガ教導ノ力多カリシナリ、

第四十七章

英吉利倫敦ノ人伯來安得、初ノ程ハ一週日ニ一二度ヅ、手車ヲ輓キ、箒ヲ持チテ衢ノ塵ヲ掃ヒナガラ、道ニ遺チタル廢物ヲ拾ヒ取リケルガ、後ニハ一頭ノ驢馬ニ小車ヲ牽カセテ來リ、又其後ハ一輛ノ荷車ト數頭ノ馬トヲ牽キ來リ、又其次ノ年ヨリハ、數輛ノ荷車ト數十頭ノ馬トヲ牽キ

來リ、終ニハ都下ノ大半ヲ掃除シ、近キワタリニ田圃ヲ買ヒテ、四面ニ壁ヲ築キ、處々ニ門ヲ穿チテ、門ゴトニ荷車ヲ牽キ入レ置ケリ、何ヲ以テカカル富有ヲ致シ、ゾトイフニ、童男童女ヲ多ク傭ヒテ、彼ノ拾ヒタル雜物ヲ撰リ分ケサセ、亞麻ノ屑ハ紙鋪ニ賣リ、銅鐵ノ片ハ冶工ニ賣リ、骨角ノ類ハ小刀ノ柄或ハ櫛ナド造ル者ニ賣リ、肥料ニスベキモノハ農夫ニ賣リナドシテ、遺利ヲ收メシ故ナリトゾ、

第四十八章

讚岐屋嶋ノ戰ニ、平氏ハ船、源氏ハ陸ニテ、互ニ暫
シ休ヒケルホドニ、沖ノ方ヨリ裝ヒタル船一艘
渚ニ向ヒテ漕ヨセツ、日ノ丸ノ扇ヲ舳頭ニ立
テ、袖笠カヅケル女房、是ヲ射ヨカシニ源氏ノ方
ヲ招キケリ、義經遙ニ是ヲ見テ、誰カアルアレ射
ヨト言ヒケルニ、人々那須與一コソ然ルベケレ
ト薦メケレバ、遂ニ與一ニ命ジタリ、與一馬ニ乘
タチ、波打際ニウチヨセテ、七段バカリ沖ノ方ヲ
見ワタセバ、主上ノ御船ヲ始メ、平家一門ノ船數
十艘オシナラビテ、今ヤ今ヤト觀ルホドニ、折節

春風吹き來リテ、船モ扇モユラメキケリ、與一少
シク靜マル所ヲ見定メテ、鏑矢ニテ射放チケレ
バ、蚊ノ目ノ程ヨリ一寸許リ上ヲ射切りタリ、扇
ノ空ニ揚ルヲ見テ、敵モ味方モモロトモニ、射タ
リ射タリト賞美シテ、其聲天ニ響キケルトゾ、

第四十九章

延元ノ亂ニ、瓜生保弟義鑑、源淋重照等ノ四人ト
俱ニ脇屋義治ヲ主將トシテ、越前ノ杣山城ニ籠
リケルニ、高師泰大兵ヲ率ヰテ城ヲ圍ミケレバ、
保義鑑等ハ終ニ討死セリ、源淋重照等ハ士卒ヲ

マトメテ城中ニ還リケルニ、殘レル者ノ多カラザリケレバ、皆カナゲニ見エケルニ、保ノ母ハ少シモ悲ム色ナク、義治ノ前ニ進ミ出デ、云ヒケルヤウ、此度人々ノ不覺ニヨリテ、計ラズモ此大敗ヲ取リヌ、幸ニシテ猶二子ノ存スルアレバ、少シク罪ヲ謝スルニ足りナン、原ト君ノ爲ニ思ヒ立チヌル一大事ナレバ、タトヒ百千ノ甥子ヲ討タル、トモ、歎クベキコトニアラストテ、自ラ杯ヲ取リテ酒ヲ勸メケレバ、義治ハ言フモ更ナリ、士卒皆感激シテ、一同ニ勇ミ立チシトゾ、其剛毅ナルコト、丈夫モ遠ク及バザルコトバモナリ、

第五十章

佐々成政、天正ノ末ニ、八千餘ノ兵ヲ率キテ、前田利家ノ士ナル奥村永福ガ守リケル能登末森ノ城ヲ圍ミケレバ、永福衆ヲ勵シテ堅ク守リケレドモ、僅ニ五百餘人ノ城兵ニテ、餘リニ強ク攻メタテラレテ、今ハ是マデナリ、自殺セント言ヒケルヲ、其妻聞キツケ、粥ヲ煮テ手桶ニ入レ、婢女ニ荷ハセ、自ラ汲ミテ防戦ノ兵士ニ食ハシメテイヒケルヤウ、昔楠トヤラン云ヒシ大將ハ、孤城ニ

籠リテ、全國ヲ敵ニ受ケタリト聞キヌ、是バカリノ敵、何程ノ事カアル、明日ハ必ズ救ノ兵モ至ルベキニ、只一夜防ギタマヘト云ヒテ、城内ヲ打巡リケリ、永福之ヲ見テ、妻ガ振舞男子ニモ優レリ、イト恥カレキコトニコソトテ、勇氣ヲ振ヒ、夜ノ明クルマデ支ヘケレバ、竟ニ援兵ヲ得テ、城ヲ全クスルコトヲ得タリシトゾ、

第五十一章

驢馬ト小犬ト、一ノ主人ニ仕ヘタリ、驢馬ハ甚ダ勤勞シテ、日々主人ヲ乗セテ遠キニ行キ、或ハ車

ヲ輓キ、或ハ重キヲ荷ヘリ、而シテ夜間纔ニ菽粟ヲ食ヒ、板屋ノ中ニ眠ル、小犬ハ常ニ主人ノ膝下ニ居テ、何ノ勞ヲモ爲サズ、其狀媚ビテ嬉戲スル者ノ如シ、而シテ晝ハ主人ト飲食ヲ共ニシテ、夜ハ主人ト衾褥ヲ同ジクス、驢馬之ヲ羨ミテ思ヘラク、我モ亦彼ト同ジク媚ヲ獻ジナバ、主人喜ビテ必ズ眠食ヲ共ニスルナラント、或ル日主人ノ來ルヲ見テ、前蹄ヲ以テ主人ノ肩ニ掛ケ、齒ヲムキ出シテ袖ヲ引キ、頻ニ嬌ヲ呈スルノ狀ヲナシ、カバ、主人大ニ怒リ、馬丁ヲ呼ビテ驢馬ノ背ヲ

擡タシメケレバ、驢馬大ニ悔イテ、物各本分アリ、
分ヲ守リテ職ヲ務ムルニハ如カジト言ヒケル
トゾ、

第五十二章

南島ノ濱ニ數千ノ狙アリ、ソノ形兩頭ノ者アリ、
偏手ノ者アリ、或ハ隻耳、或ハ雙鼻、兔脣、夔足ニシ
テ全キ者ナシ、朝ニハ集リ、夕ニハ會シ、筵ヲ開キ、
杯ヲ舉ゲ、偏手ノ者節ヲ擊テ、隻耳ノ者俯シテ
聽キ、兔脣ノ者吟ズレバ、夔足ノ者起チテ舞ヒ、互
ニ驪筵ヲ張リケルガ、適一狙ノ他ヨリ來ルコト

アリ、羣狙之ヲ見テ、絶倒
シテ大ニ笑ヒ、相指シテ
曰ク、彼ノ狙ハ一頭兩足、
兩目一鼻ニシテ、一ツモ
我等ニ同ジキ所ナシ、其
父ハ何者ゾ、其母ハ誰ナ
ルゾ、何ゾ甚ダ醜キヤト、
頻ニ罵リテ、誼譁止マザ
リシトゾ、己ガエガメル
心ヲ以テ、他ヲアザケル



ハ此羣狙ニ異ナラズ、

第五十三章

僧ノ文覺京ノ清瀧川ノ上ニテ、大ナル猴ノ兩三頭アルヲ見シガ、一頭ノ猴ハ岩ノ上ニ仰ノキ臥シテ動カズ、二頭ハ少シ退キテ、物ノ陰ニ隱レ居タリ、文覺怪ニ思ヒテ、竊ニ覘ヒ見ケルホドニ、鳥一二羽伏シタル猴ノ側ニ飛ビ來リテ、先ヅ嘴モテ猴ノ足ヲ衝キケリ、猴ハ猶死シタル様ニテアレバ、鳥ハ漸ク猴ノ上ニ登リテ、眼ヲクジラントシケル時、猴ハヤガテ鳥ノ足ヲ執リテ起キアガ

リヌ、ソノ時殘ノ猴二頭出デ來テ、長キ蔓ヲ持チテ鳥ノ足ニ繋ギ、ヤガテ川ニ下リテ、鳥ヲバ水ニ投ゲ入レテ、一頭ハ蔓ノ端ヲトリ、二頭ハ川上ヨリ魚ヲカリケリ、人ノ鶺ヲ使ヒケルヲ見テ、魚ヲ捕ラセントシケルニヤ、不思議ニモ思ヒヨリ夕リケルカナ、鳥ハ水ニ投ゲ入レラレタレドモ、其益ナクテ死ニケレバ、猴ドモハ打棄テ、山ニ入リケルトゾ、其智ハ人ニ及バザルモ、亦巧ナル事ドモナリ、

第五十四章

或ル農夫原野ニ穀物ノ種ヲ蒔シニ、軟茅僅ニ生
ズルノ日、羣鳥集リ來リテ、盡ク啄ミ去ラントヤ
シカバ、農夫怒リテ之ヲ追ヒ拂ハンガ爲ニ、鐵砲
ヲ持チ來リテ監護シケルホドニ、羣鳥來リテ苗
ヲ啄ムコト昨日ノ如シ、農夫乃チ籬ニ沿ヒテ潛
リ行キ、漸クニシテ近ヅキ寄り、火ブタヲキリテ
打發チケレバ、羣鳥愕キテ散リヂリニ飛ビ去リ
タリ、農夫彼處ニ馳セ往キテ、斃レタル鳥ヲ見レ
バ、コハイカニ、己ガ常ニ愛シテ放飼ニセル鸚哥
ニシテ、足折レテ立ツコト能ハズ、悶へ苦ミテ居

タリ、農夫悲ミテ家ニ持チ歸リ、小兒ニ示シテ謂
テ曰ク、汝此鳥ヲ見ヨ、我が苗ヲ啄ムヲ以テ、カ、
ル禍ヲ蒙リタリ、コハ其惡シキ者ト交ルヲ以テ
ナリ、汝等モ亦能ク之ヲ鑒ミテ、決シテ惡シキ友
ト交ルコト勿レト諭シケルトゾ、

第五十五章

相坂ニ琵琶ニ名高キ盲人アリ、高ク世外ニ棲ミ
テ、人ニ傳ヘズ、就中流泉啄木ノ秘曲ハ、聞クコト
ヲサヘ得ル者ナシ、源博雅思ヲ琵琶ニ專ニセシ
ガ、常ニ其秘曲ヲ得ザルコトヲ恨ミ、且ツ憂フル

ヤウ、此盲人一タビ逝カバ、此曲永ク絶エナント、
一日其廬ニ至リケレドモ、言ヒ出ヅベキタヨリ
モナクテ還リヌ、コレヨリ毎夕竊ニ往キテ、夕、
ズミ聽クコト三年ナリシニ、未ダ嘗テ彈ズルコ
トアラズ、適中秋月陰リ、風凄マジキ夜ニ、復往キ
テ伺ヒシニ、盲人偶盤涉調ノ曲ヲ彈ジケレバ、博
雅悶癢シテ秘曲ニ及バンコトモヤト、耳ヲスマ
シケルニ、暫クシテ彈ジ罷ミ、蕭然トシテ嘯咏シ、
此岑寂ニ當リテ、誰カ静夜ノ思ヲ共ニスベキモ
ノゾトカコチケレバ、博雅聲ニ應ジテ出デ、乃チ

名ヲ通ジ、且ツコレマデノ事ドモヲ語リケレバ、
盲人感歎ノアマリ、悉ク秘曲ヲ授ケシトゾ、

第五十六章

永井尚政ノ老臣佐川田昌俊和歌ヲ好ミテ、常ニ
名歌ヲ讀ミ出サント心懸ケルガ、或ル時尚政昌
俊ヲ呼ビテ、一ツノ扇ヲ渡シ、是ハ近世ノ秀吟ノ
由ニテ、禁裏ヨリ下シ置レシナリトテ、今日登城
ノヲリ、將軍家ヨリ賜ハリタルナリ、汝ハ風流ニ
志厚キニ依リ、示スベシト云ヒケレバ、昌俊コレ
ヲ開キ見ルニ吉野山花マツ頃ノ朝ナアサナ、心

ニカ、ル、峰ノ白雲トアリ、昌俊涙ヲ流シテイヒケルハ、恐レナガラ此歌ハ拙作ニテ候ヲ、京師ニサレノボセ候ヒシニ、秀逸ノ由ニテ御賞羨ニアヅカリ、畏レ多クモカクハ御手ニ觸レサセタマヘルコトノ忝サヨトイヒケレバ、尚政大ニ驚キ、且ツ感ジテ、ソノ後具ラニ事ノ由ヲ聞エケルニ、將軍モ亦深ク賞シテ、昌俊ヲ召シ、厚ク物ヲ賜ヒシトゾ、

第五十七章

徳川家康參河ニ在リシ時、制法ヲ定メ、高力與左

衛門本多作左衛門天野三郎兵衛ヲ三奉行トシケリ、其頃世人ノ諺ニ、佛高力、鬼作左トチヘンナレノ天野三郎兵衛トイヒシトゾ、トチヘンナレトハ、左右遷就シテ、一決セヌトイフ俗語ナリ、此諺ヲモテ考フルニ、高力ハタゞ寛仁ニシテ、本多ガ勇決ニカマハズ、本多ハタゞ勇決ニシテ、高力が寛仁ニカマハズ、天野ハ高力本多ニ偏倚セズ、タゞ道理ノ宜シキニ從ヒシモノト見エタリ、コハ三人トモニ廉潔ニシテ、奔競ノ心ナキガ故ニ、強テ同職ノ意ニ從ハントモセズ、又同職ヲオサ

ヘントモセズ、各心ノ儘ニフルマヒシナリ、家康
之ヲ知リテ、同職ト爲シ、カバ、始ノ程ハ、思ヒ思
ヒニテ、一致セヌヤウニ見エケルガ、イツシカ長
短相救ヒテ、國政正シク、諸事治リシホドニ人々
家康ノ鑒識ニ服シケルトゾ、

第五十八章

本多正信、板倉勝重ヲ京都所司代ニ薦メントセ
シ時、勝重正信ニ向ヒ、身ニ重職ヲウクルコトナ
レバ、先ヅ妻ニ謀リテ、若シ同意セズバ、辭スベキ
ヨシ答ヘケルニ、正信打ウナヅキケレバ、勝重家

ニ歸リテ、妻ニ向ヒ、カ、ル仰ヲ承リ又、重キ任ナ
レバ、内縁ヲ頼ミ訴フル者ナシトハ言ヒガタシ、
汝公私ニツキテロヲ添ヘズバ、謹ミテ命ヲ拝セ
ン、若シ少シニテモイロハントナラバ、只今其由
ヲ述ベテ、京ニハ赴カジト言ヒケレバ、コハ如何
ナル事ヲノタマフゾ、疾ク疾ク仰ヲ承リタマ
ヘ、女ノ身ノイカデ公事ニタヅサハリ申スベキ
ト答ヘシカバ、サラバトテ立ち出ル時、袴ノ腰ヲ
子ジラシテハキケルヲ、妻ソレハ如何ニト言ヒ
ケレバ、勝重サレバトヨ、カクアルベシト思ヒシ

ナリトテ、重子テロイル、コトヲ戒メテ後、始メテ命ヲ拝シタリシトゾ、

第五十九章

塞拉古王畢羅黃金ノ冠ヲ購ヒテ、其製作ヲ損シラキニスフコトナク、金ノ純駁如何ヲ驗セント欲シ、之ヲ理學者亞幾迷的ニ托セシカバ、此問ニ答ヘントテ、久シク心ヲ碎キケルガ、一日入浴シテ、浴水ノ桶内ニ上騰スル割合ハ、其身ノ沈ムニ從ヒテ、反對ノ比例ヲアラハスヲ見テ、若シ疎密ヲ均シクシ、重量ヲ同ジクスル物體ヲ以テ、器中ノ水ニ投

ズルトキハ、其物體ノ重量ヲ減ズルコト、上騰スル水ノ重量ニ等シキコトヲ曉リ、欣喜ノ餘リ、直チニ浴室ヲ走り出デ、裸體ノマ、ニテ家ニ歸リ、其冠ニ均シキ重量ノ純金ト純銀トヲ取リテ、之ヲ試験セシニ、其冠ハ純金ニモアラズ、又純銀ニモアラズ、金ト銀トノ混合物ナルコトヲ驗出セリ、コハ今ヨリ二千年前ノ事ニシテ、其後遂ニ水ヲ以テ物體ノ疎密ヲ比較スルコト、世ニハ盛ニナリシトゾ、

第六十章

朝鮮ノ役ニ、明主使ヲ遣
シテ和ヲ乞ヒ、書ヲ豊臣
秀吉ノ許ニ贈リヌ、僧ノ
承兌其文ヲ讀ミアゲシ
ニ、爾秀吉海邦ニ崛起シ、
中國ヲ尊ブコトヲ知ル、
特ニ爾ヲ封ジテ日本國
王ト爲ス、爾臣職ノ修ム
ベキヲ念ヒ、皇恩ノ渥キ
ニ感ジ、欵誠替ルコトナ



カレトアルヲ、秀吉聞キテ、大ニ怒リ、聲ヲ勵シテ
曰ク、是レ何ノ言ゾヤ、我武略ヲ以テ功ヲ立ツ、渠
ガカヲ藉ラズ、前日小西行長我ニ謂テ曰ク、明主
乃チ言フ、我ヲ立テ、大明國主ト爲ント、是ニ由
リテ軍ヲ班シタリ、行長我ヲ詭クカ、且ツ我本朝
ニ在リテ、若シ明ニ内附スルコトヲ求メナバ、其
罪豈輕カラシヤ、急ニ行長ヲ呼ビ回セ、我其首ヲ
斬リテ、心ヲ快スベシト言ヒケルトゾ、

第六十一章

大坂夏ノ陣ニ、徳川頼宣十三歳ナリケルガ、京ノ

二條ノ城ニテ進ミ出テ、我ニ先手ヲ命ゼラレタ
シト乞ヒケレバ、父家康喜ビテ、城強クシテ先手
攻メアグミダラン時、汝ニ命ズベシト云ヘリ、カ
クテ大坂落城ノ時、賴宣ハ旗本ノ後備ニテ、未ダ
著陣セザルウチニ合戦終リ、城ハ落チニケリ、茶
臼山ニテ賴宣父ニ向ヒ、今日先手ニテアラザリ
シ故ニ、兵ヲ交ヘズ、遺憾ノ至リナリト頻ニ嘆キ
ケレバ、松平正久言ヒケルハ、今日戦ヒタマハ子
バトテ、サホドニハ思ヒタマフマジ、御一代ノ中
ニハ幾度モカ、ル事ノアルベキニト云ヒケル

ニ、賴宣ハタト正久ヲ睨ミ、我十三歳ノ時ガ又ア
ルベキカト言フヲ、家康聞キテ、涙ヲ浮べ、深ク其
言ヲ感ジケルトゾ、

第六十二章

亞拉岡王亞豐蘓道ヲ行クニ儀仗ヲ備ヘザリケ
レバ、或ル人不虞ニ備フベシト云ヒケルヲ、王ハ
哂ヒテ、父トシテ子ヲ恐ル、ノ理ナシト云ヘリ、
曾テ水夫ノ漂流シテ困メルヲ見テ、我モ亦困苦
ヲ分タントテ、小舟ヲ進メテ、之ヲ救ヒケリ、一日
貴族相謀リテ、王ヲ弒セント盟ヒタル連署ヲ進

ムル者アリケルガ、王ハ之ヲ見ズシテ、直チニ裂
キ棄テタリ、常ニ曰ク、天ノ善事ヲ扶ケザルニ至
ラズバ、イカデカ凶毒ノ仁愛ニ勝ツコトヲ得ン
ト、嘗テ基多ヲ征セシ時、基多ノ人城守シテ拒ギ
ケルガ、糧食少ナキヲ以テ、老少婦女ヲ城外ニ放
チケルニ、王ノ將校相謀リテ曰ク、之ヲ城ニ追ヒ
入レテ、早ク食ヲ竭サシメント、王ノ曰ク、安全ノ
地ニ逃レシムルニ如カズト、士卒皆王ヲ迂ナリ
トセシガ、城中ノ軍其仁愛ニ感ジ、戦ハズシテ降
リケルトゾ、

第六十三章

備中國矢田村嘗テ大水ニテ、田畠悉ク損亡シ、村
民餓死ニ及バントセシホドニ、里正見ルニ堪ヘ
カ子テ米穀ノアラン限ヲ貸シ與ヘ、藁アマ夕取
ラセテ、草履草鞋ナドヲ作ラシメシカバ、人々悦
ビアヘルコト限ナシ、此頃國守ヨリ、湯淺民部ヲ
奉行トシテ、所々ノ困窮ヲ尋子サセラレシニ、村
々ヨリ救荒ノ扶助ヲ乞ヒ出ヅルコト數ヲ知ラ
ズ、ソガ中ニ、水害最モ甚シキ矢田村ヨリハ、何ノ
願モアラザリケレバ、里正ノ計ヲヒトシテ、小民

ノ死ヲ顧ミザルニヤ、不屈ノ事ナリトテ、詮議アリシニ、只今此事申スベキハ、本意ナラ子ト、又隠スベキコトニモアラ子バトテ、有ノマ、ニ言ヒ出シカバ、民部手ヲ拍チテ大ニ驚キ、カバカリ奇持ナル事コソアレトテ、速ニ太守ニ訴ヘシニ、太守深ク感ジテ、米ヲ賜リシトゾ、

第六十四章

備前ニ富民兄弟ノ家貲ヲ争ヒテ訟フル者アリ、黨援各百人アマリアリテ、法官推訊シケレドモ、數年ノ間判決セザリケレバ、熊澤助八代リテ法

司ト爲リ、其兄弟ヲ召シテ、同ジク一堂ニ坐セシム、折シモ冬ノ頃ナレバ、一ノ火爐ヲ堂ノ中央ニ置キ、終日何ノ問フコトモナク、日暮ニ及ビ、盤飧ヲ出シテ、二人ニ食ハシム、三日ノ間此ノ如ク取計ラハセ、助八ハ屏障ヲ隔テ、坐シ、其二兒ニ命ジテ、事ヲ膝下ニ執ラシメシニ、二兒互ニ睦ビテ、友愛ノ情イト深シ、兄弟心ニ其己ヲ諭セルヲ曉リ、初ノホドハ各一邊ニカケ隔タリシガ、今ハ互ニ愧ラフ心ノ胸ニ迫リテ、爐邊ニ近ヅキテ謂ヘルヤウ、甚シキ寒サニテハナキカト、覺エズ手ニ

手ヲ執リカハシテ、涙ヲ流シ、先非ヲ悔イ、結ビシ
怨モ忽チ消エニケレバ、遂ニ退キテ黨援ヲ解キ、
訟ヲ止メシトゾ、數年ノ疑獄ニ寸舌ヲ勞スルコ
トナク一朝ニシテ之ヲ息メシハ、善ク訟ヲ聽ク
者ト謂ヒツベシ、

小學讀本卷三終

明治十七年十一月五日版權免許
同二十年五月十九日校正御届

定價金四錢

纂述人

東京府士族

阿部弘藏

出版人

東京府士族

原亮三郎



大賣捌

大阪北久寶寺町四丁目

金港堂原亮三郎支店

兵庫岐阜

金港堂支店

賣捌

各府縣下代理大賣捌所